

- 1 次の文章は、6年1組のあきこさん、ひろしさん、ジョンさんの会話です。あきこさんのクラスは1年生に読み聞かせをすることになりました。クラスの中で役割分担やくわりぶんたんをして、12人が読む係になりました。あきこさんたち3人は読む係のまとめ役として、1年生にみんなで作ったお話を楽しんでもらえるように話し合っています。

みんなで作ったお話

あるところに、すずめの親子が暮らしていました。

「さあ、おまえたち。けさはいっしょに公園までえさをとりに行きますよ。」

母すずめが、飛べるようになったばかりの4羽の子すずめたちに言うと、1羽目の子すずめが、今にも飛び立ちそうにして返事をします。

「ああ、早く行きたいよう。」

2羽目も負けずに羽を大きく広げて言いました。

「きのうは大雨で外に出られなかったから、おなかがぺこぺこだ。」

せのびをして公園を見ていた3羽目の子すずめは、ブルブルッと羽をふくらませました。

「でも母さん、わたしたち、あんなところまで飛べるかしら。」

「だいじょうぶ。おとといは、お向かいの家のケヤキの木まで飛べたんですからね。ケヤキの木まで行けば公園はすぐそこですよ。さ、行きましょう。」

母すずめは、お手本を見せるように羽ばたいて向かいの家の屋根にとまりました。1羽目と2羽目の子すずめも、続いて母すずめの横におり立ち、得意そうにさえずります。3羽目の子すずめは、パタパタとあぶなっかしい飛び方でしたが、なんとかたどり着くことができました。けれども4羽目の一番小さい子すずめは動きません。

「ぼく、こわい。おとといだって、もう少しで落ちるところだったもの。」

「勇気を出して。だいじょうぶだから。」

向かいの家の屋根で待っているすずめたちが、口々にはげまします。

「ぼく、やっぱり、こわい。」

向かいの家のケヤキの木が、①サワサワと枝を鳴らして言いました。

「どうれ、もう一度枝まで飛んでみるといい。」

「向かい風を待って飛んでごらん。風が来たら思い切り羽ばたくのよ。」

母すずめの言葉に、子すずめは目をつぶり、ブルッと体をふるわせました。こわい気持ちになんとか勝ちたいと思いました。お母さんのところに飛んで行きたい、そう思うと、一生けん命羽ばたいている自分のすがたが見えるような気がします。

「風が来たら。風が来たら。」

子すずめはもう一度ブルッと体をふるわせました。公園の方から、サワサワと風がわたってくる音がします。向かいの家のケヤキの木がやさしく言いました。

「どうれ、ここまで飛んでみるといい。」

公園のケヤキの木々の声もいっせいに聞こえてきました。

「どうれ、ここまで飛んでくるがいい。」

次の瞬間しゅんかんです。向かいの家のケヤキが、②ザワザワザワッと枝を鳴らしました。

「風が来た！」

子すずめは、思い切り羽ばたきました。ふわり。風に乗ったのです。子すずめは向かいの家の屋根もケヤキの木もこえて、公園へ力強く飛んで行きました。

あきこ：読み聞かせはふつう1人で読むのですが、今回は一人一役で読むことにしましょう。

ジョン：12人全員が、舞台に上がって読むのですね。

ひろし：どんな役があるか、「」で囲まれた部分をはじめから順番に確認してみませんか。

ジョン：すずめが5羽で、ケヤキの木も話していますね。「」以外の部分はどうするのですか。

あきこ：ナレーターが1人で全部読みます。

ジョン：「」以外の部分が長いので、ナレーターは何人かで分担しませんか。

あきこ：そうすると、1年生が話を聞いていて、分かりにくくなる気がします。

ひろし：そうですか。では、ナレーターは1人で受けもつことにしましょう。ナレーターもほかの役の人と一緒に舞台に立つのですね。

あきこ：そうです。舞台には「」の部分を読む人と、ナレーターだけが立つことになります。それぞれ、舞台のどの位置に立ったらいいか、考えませんか。

ジョン：どこでもいいのではないのですか。

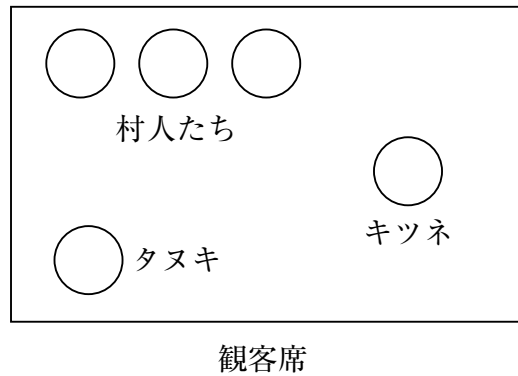
あきこ：そんなことはありません。読み聞かせは劇とちがって動くことがないので、場面を考えて立つ位置を決めましょう。

ひろし：このお話は4羽目の子すずめの気持ちが大切なので、その気持ちがよく表れている場面を考えて、決めたほうがいいと思います。

【問題1】 みんなで作ったお話と、3人の会話の内容を参考にして、12人がそれぞれどの位置に立ったらよいか、答えのかき方の例のようにかきなさい。

答えのかき方の例

タヌキ、キツネ、村人たちが舞台上がる場合



【問題2】 下線部①「サワサワ」と下線部②「ザワザワザワッ」は、どちらもケヤキの木の枝が鳴る様子の強弱を表す言葉です。風や音の強弱によって、どのようなことを伝えようとしているのか、書きなさい。

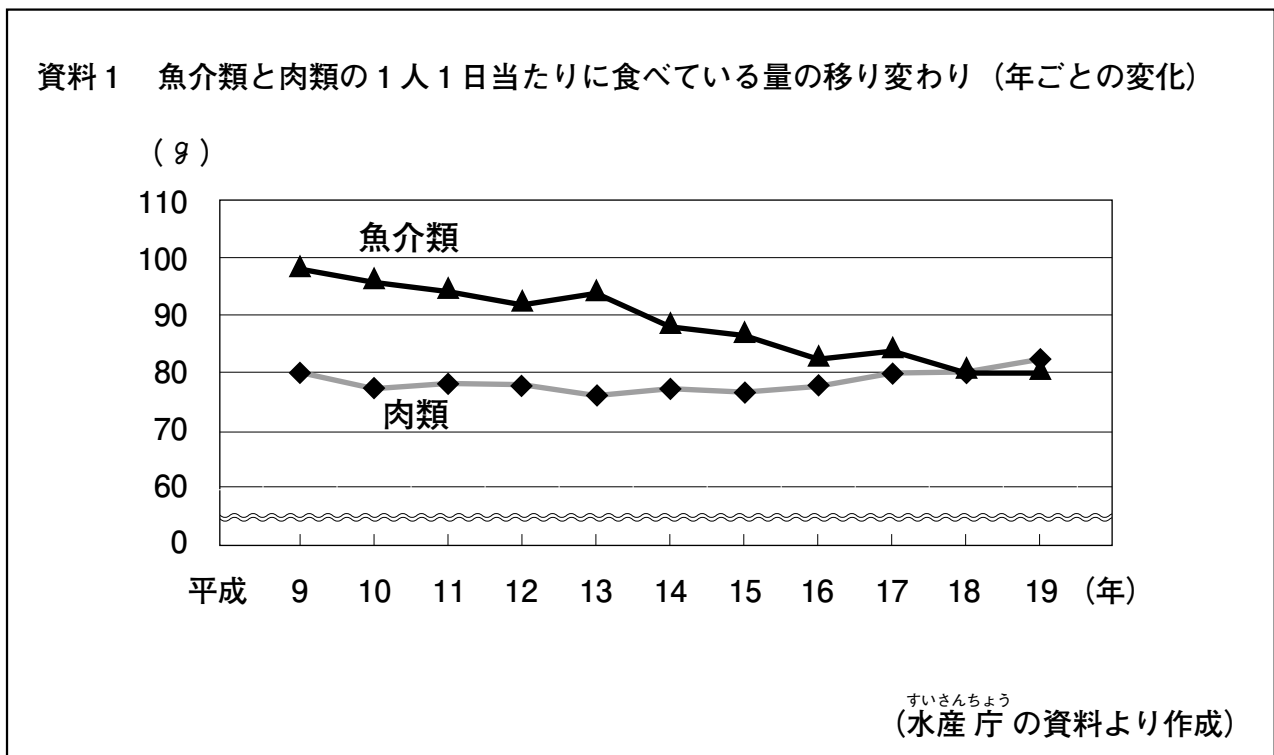
ひろしさん、あきこさん、ジョンさんの3人は、総合的な学習の時間に、日本の食生活について集めた資料をもとに話し合いを始めました。

ジョン：日本の料理では、寿司がよく知られていますが、日本人はやはり肉料理よりも魚料理を食べることが多いのですか。

ひろし：それぞれの家庭や個人の好みにもよりますが、ハンバーガーや焼き肉などの肉料理も多く食べているような気がします。

あきこ：この資料1は、魚介類と肉類を1人が1日に食べている量の移り変わりを表しています。

ひろし：魚や貝類などを合わせて魚介類と表しているのですね。



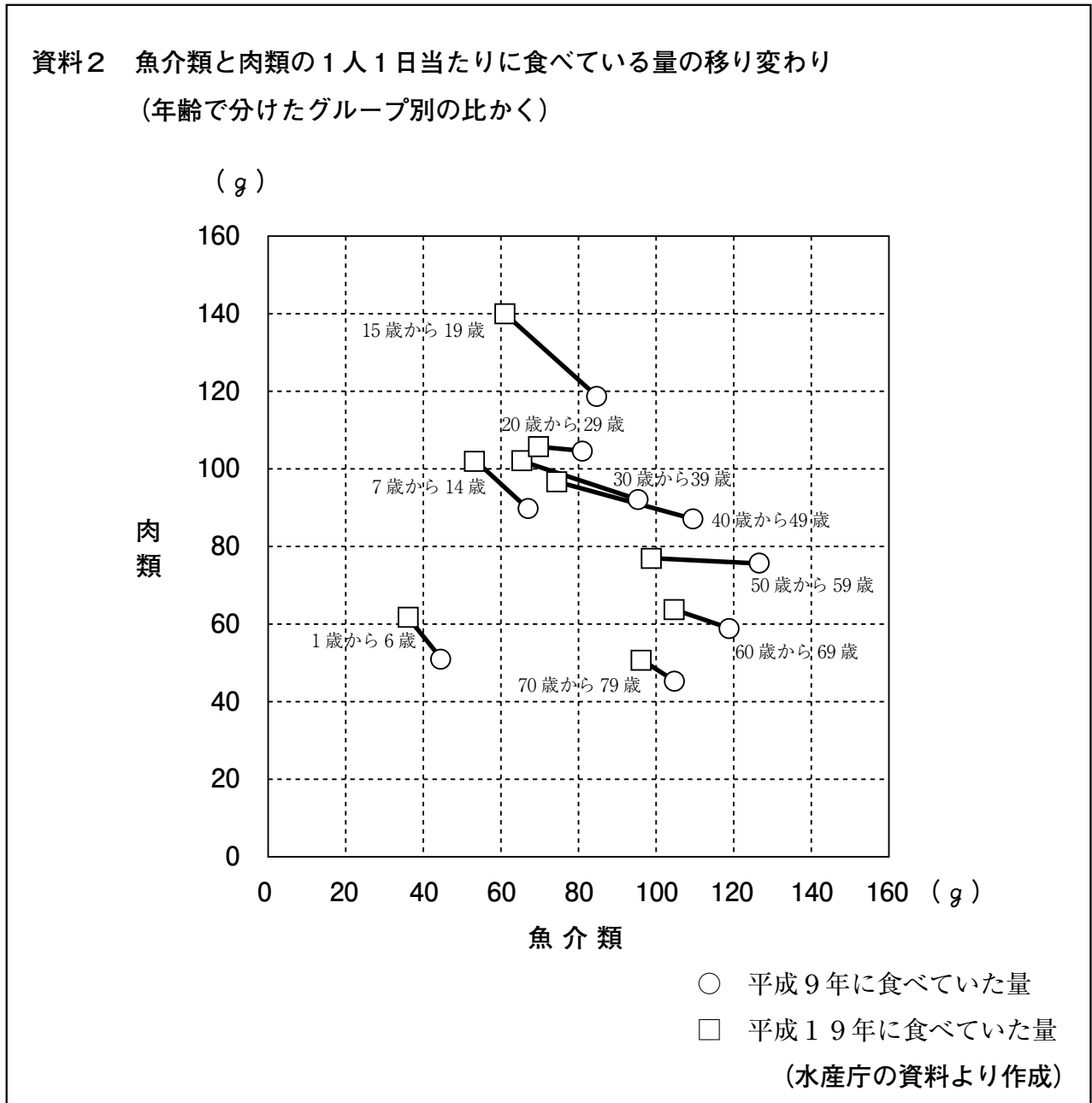
あきこ：平成9年では、魚介類を食べる量が肉類を上回っていますが、その後、魚介類を食べる量は減ってきているのが分かります。

ジョン：平成19年には、肉類を食べる量の方が魚介類を食べる量よりも多くなっています。

ひろし：わたしたち子供が、肉料理を多く食べるようになったからかもしれません。

ジョン：^{ねんれい}年齢によるちがいが分かる資料はありませんか。

あきこ：資料2は、平成9年と平成19年の魚介類と肉類を食べている量の移り変わりを、「1歳から6歳」「7歳から14歳」などの、年齢で分けたグループ別に表しています。



ジョン：資料2のようなグラフは初めて見ました。

ひろし：たてのめもりで1人が1日に食べる肉類の量を、横のめもりで1人が1日に食べる魚介類の量を表していますね。

あきこ：例えば、平成9年と平成19年に「7歳から14歳」が魚介類と肉類を1人1日当たりに食べている量は、資料3のようになります。

資料3 「7歳から14歳」が魚介類と肉類を1人1日当たりに食べている量

(単位：g)

	平成9年	平成19年
魚介類	67.1	53.1
肉類	89.9	102.2

こうせいろうどうしやう
(厚生労働省の資料より作成)

ジョン：資料2にある「7歳から14歳」のグループの○印の位置は、資料3の平成9年には魚介類を食べた量が67.1gで、肉類を食べた量が89.9gということを表したもののなのですね。

ひろし：同じように、資料2の「7歳から14歳」のグループの□印の位置は、平成19年の魚介類と肉類を食べた量を表しています。

あきこ：資料2をよく見ると、いろいろなことが分かります。

ジョン：年齢で分けたすべてのグループに共通していることがあります。

【問題3】 資料2から分かる、魚介類や肉類の1人1日当たりに食べている量について、年齢で分けたすべてのグループに共通して言えることを1つ書きなさい。

あきこ：資料2を見ると、年齢で分けたグループによって、魚介類や肉類それぞれの食べる量の変化についても分かります。

【問題4】 資料2から、年齢で分けたグループの中で、他のグループに比べて魚介類を食べる量の変化が大きいグループがいくつかあることが分かります。そのグループを1つ選び、選んだ理由についてグラフの特ちょうをあげて説明しなさい。

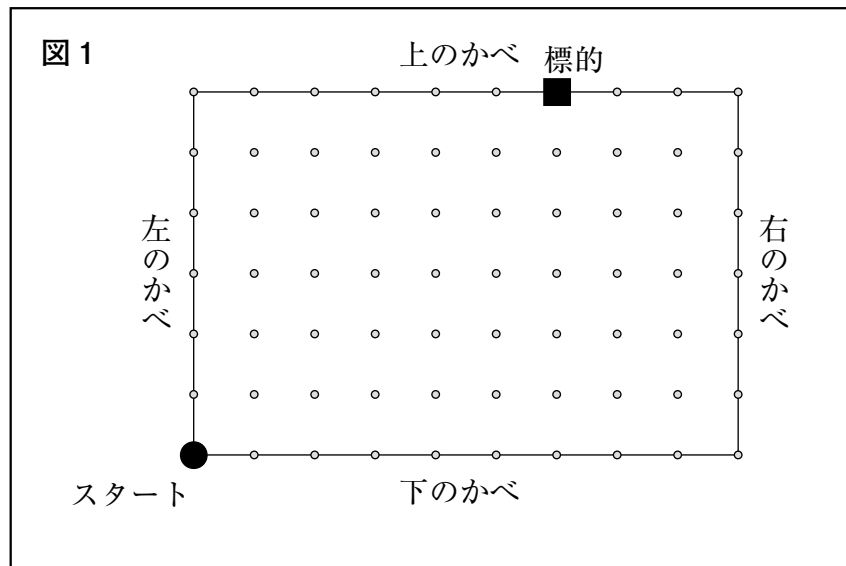
2 ひろしさん、あきこさん、ジョンさんが通う小学校では、土曜日に校舎を開放して、地域のボランティアの人たちと小学生がいっしょにスポーツやゲーム、工作などを楽しむ「土曜教室」を開いています。

ひろしさん、あきこさん、ジョンさんは、ボランティアの西山さんがリーダーをしている「パソコンゲーム」の教室に行きました。

西山：ここはパソコンを使って楽しむ「反射ゲーム」のコーナーです。

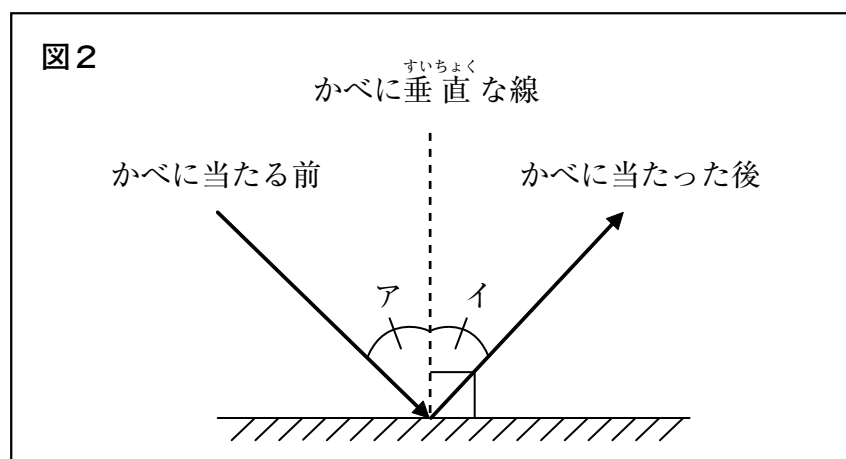
ひろし：おもしろそうですね。どのようなゲームなのですか。

西山：図1の●印のスタートの点から球を放って、周りのかべに2回だけはね返らせて■印の標的に当てるゲームです。



あきこ：球はどのようにかべではね返るのですか。

西山：図2を見てください。このようにかべに当たる前とかべに当たった後で、球が通った跡を線で表した場合、図2のアとイの角の大きさが等しくなるようにはね返ります。



ジョン：図1ではスタートと標的のほかに点が、たて、横に同じ間かくで並んでいます。

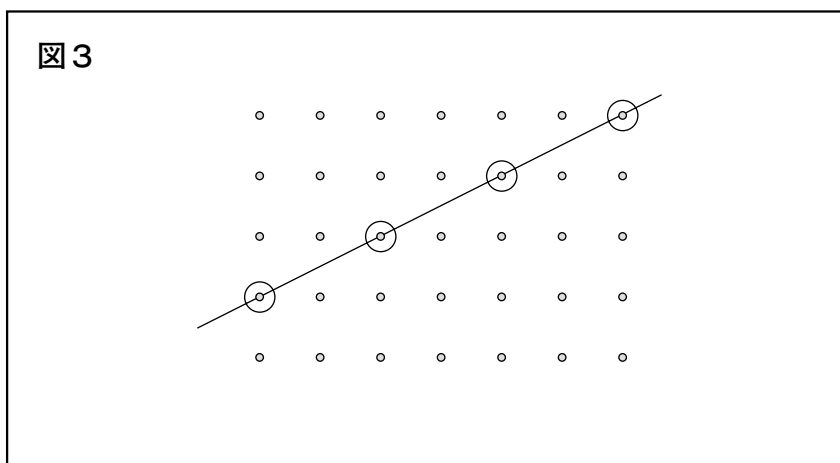
西山：1つ1つの点をそれぞれ格子点と呼ぶことにします。

ひろし：格子点があると、どの方向に向かって球を放てばよいのかが分かります。

西山：はじめに図1で●印のスタートの点から球を放って、上のかべと下のかべにそれぞれ1回だけはね返らせて■印の標的に当ててみましょう。

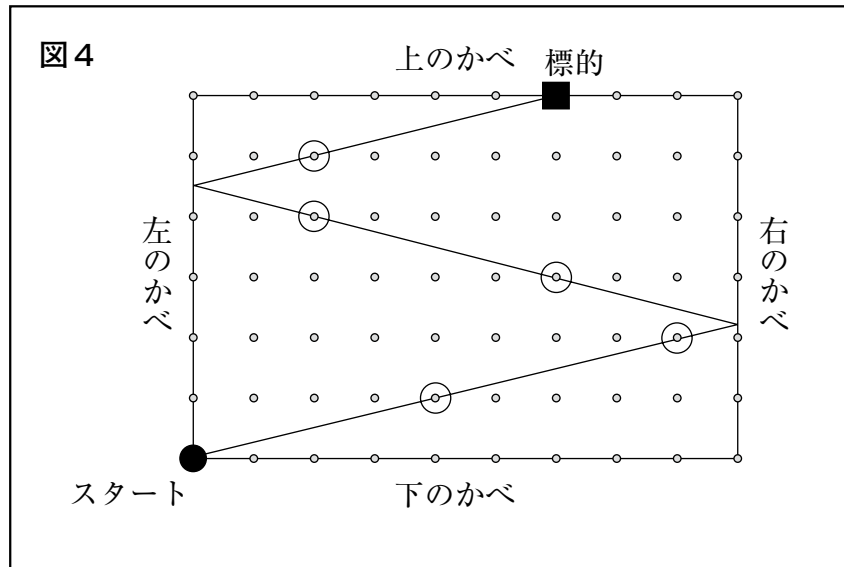
【問題1】 図1で●印のスタートの点から球を放って、上のかべと下のかべに1回ずつだけはね返らせて■印の標的に当てるとき、球が通った跡の線をかきなさい。

ただし、かいた線が格子点と重なるときは、図3のように重なった格子点すべてを○印で囲むこと。



あきこ：球を右のかべと左のかべに1回ずつだけはね返らせて、標的に当てることもできそうです。

西山：図4を見てください。



あきこ：球が進んだ様子が分かります。

ジョン：球を放つ方向は、どのようにして見つけたのですか。

西山：球がどれくらい進んだのかを、横の方向とたての方向に分けて考えてみましょう。となりあった格子点の間を1とすると、横の方向には合わせてどれくらい進んだといえますか。

ひろし：横の方向には、右に9、左に9、右に6進んでいるので、合わせて24になります。

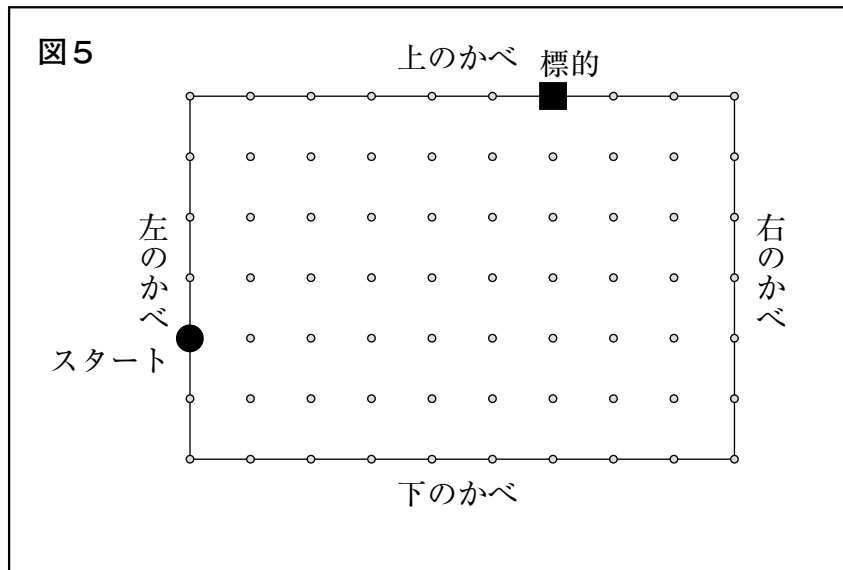
西山：たての方向には合わせていくつ進んだことになりますか。

ジョン：たての方向には、合わせて6です。

西山：横の方向に24進む間に、たての方向に6進んだということは、横の方向に4進む間に、たての方向に1進むと考えることができます。

ジョン：そうですね。たしかに図4では、横の方向に4進む間に、たての方向に1進んでいます。

西山：では、図5で●印のスタートの点から球を放って、周りのかべに2回だけはね返らせて■印の標的に当ててみましょう。



【問題2】 図5で●印のスタートの点から球を放って、周りのかべに2回だけはね返らせて■印の標的に当てるとき、球が通った跡の線をかきなさい。ただし、2回のうち1回は下のかべにはね返らせることとします。

かいた線が図3のように格子点と重なるときは、重なった格子点すべてを○印で囲むこと。

次に、ひろしさん、あきこさん、ジョンさんの3人は、ボランティアの小林さんがリーダーをしている「^{すいり}推理ゲーム」の教室へ行きました。

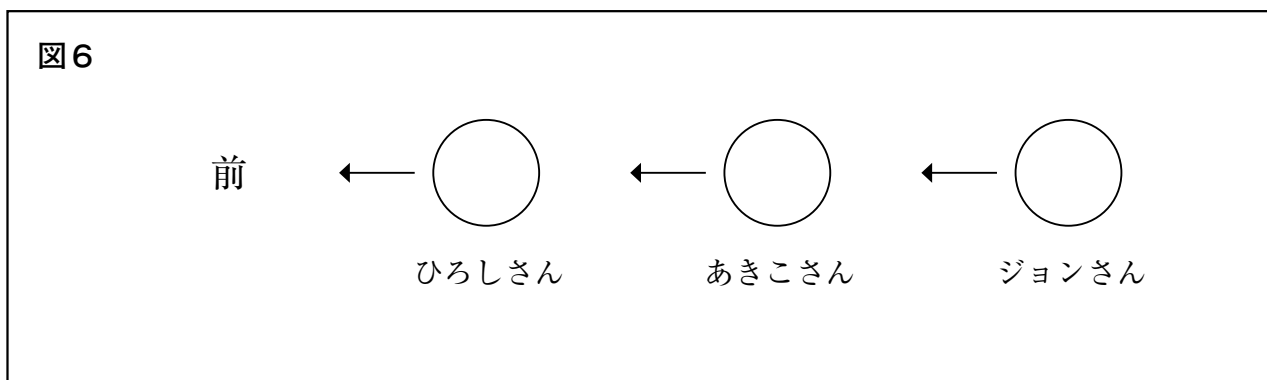
小 林：今日は「^せ背番号推理ゲーム」をしましょう。

あきこ：どんなゲームですか。

小 林：たて1列に並んだ3人が協力して、先頭の人が、全員の背番号が^{ぐうすう}偶数か^{きすう}奇数かを推理するゲームです。さっそくやってみましょう。先頭の人はいだれがやりますか。

ひろし：わたしがやります。

小 林：では、ひろしさんを先頭に、あきこさん、ジョンさんの順に前を向いて並んでください（**図6**）。ここに^{まい}5枚の背番号があり、それぞれに1から5までの数字が1つずつ書かれています。今からわたしが、後ろの人から順に1人ずつ背中に背番号をつけていきますが、後ろはふり返らないでください。



あきこ：前の人番号は見えてしまってもよいのですか。

小 林：はい。自分より前にいる人の番号は見てかまわないので、ジョンさんはひろしさんとあきこさんの番号を見てください。ただし、その番号を言ってはいけません。

ジョン：はい。

小 林：それではこれから3人に順番に質問をしていきます。自分から見える番号と前の人答えた結果をよく考えて、正確に答えてください。

ひろし・あきこ・ジョン：はい。

小 林：初めにジョンさんに聞きます。ひろしさんの背番号とあきこさんの背番号を見て、あなたの番号が偶数か奇数か分かりますか。

(しばらく考えて)

ジョン：2人の背番号からだけでは、分かりません。

【問題3】 このとき、ジョンさんはひろしさんの背番号とあきこさんの背番号からだけでは、自分の背番号が偶数か奇数かを判断することはできませんでした。ひろしさん、あきこさんの背番号は、それぞれ偶数・奇数のどちらだったでしょうか。考えられる場合を、1つ答えなさい。また、そう考えた理由も書きなさい。

小 林：次にあきこさんに聞きます。前のひろしさんの番号と、今のジョンさんの答えとを参考にして、あなたの背番号が偶数か奇数か分かりますか。

(しばらく考えて)

あきこ：分かります。

小 林：最後にひろしさんに聞きます。ジョンさんとあきこさんの答えを参考にして、あなたの背番号が偶数か奇数か分かりますか。

ひろし：分かります。

【問題4】 ジョンさんの答えと、あきこさんの答えを合わせて考えると、ひろしさんは自分の背番号が偶数か奇数かを判断することができます。このことから考えられる3人の背番号の偶数・奇数の組み合わせを1つ書きなさい。